

2025 年 7 月 1 日

活動報告書（4～6 月）

プロジェクト名：Template

作成者：田中慶一郎

1. 当期の目標

私たちは9月のイベント実施に向け、以下の3点を当期の目標とし、活動を行った。

- ・ お寺に直接うかがって、生の声を伺い現状認識を行う
- ・ お寺を活用した既存のイベントや団体の把握・分析
- ・ 現状を踏まえたお寺でのイベントの企画

2. 活動内容とその成果

- ・ お寺に直接うかがって、生の声を伺い現状認識を行う

メンバー一人当たり最低3件の訪問を目標として設定し、主に5月にお寺への訪問とインタビューを実施した。当期が修学旅行シーズンと重なり、直接の訪問をお断りされるお寺も多かったので、対面でのインタビューと並行して書面による質問状の送付も実施した。結果として全員が目標を達成することはできなかったものの10件のお寺からお話を伺うことができた。さまざまな宗派や考え方をお持ちのお寺にお話を伺う中で、共通した課題認識や現状を把握することができた。

さらに、メンバーの寺院後継問題への理解を上げるために鶴飼秀徳氏の『寺院消滅一失われる「地方」と「宗教」一』を課題図書として設定し、メンバー各自で読解を行った。（写真は2025年4月28日、京都市左京区の瑞林院にて住職と撮影）



- ・ お寺を活用した既存のイベントや団体の把握・分析

既存のお寺を活用した取り組みとして、お寺をコワーキングスペースとして使うプラットフォームを作成している取り組みが存在している。また、日本航空も JAL パック・旅アカデミーとしてお寺を舞台にしたイベントを実施するなど、寺院を活用した取り組みが世間でも一定存在することがわかった。

さらに海外に視点を広げると、「Adaptive Reuse」という考え方で伝統的な建築物を本来の用途とは異なる目的で利用する事例が多く存在することがわかった

- ・ 現状を踏まえたお寺でのイベントの企画

お話を伺うことができたお寺の 1 つにイベントでの利用を積極的に受け入れてくださるお寺があったのでそのお寺で 9 月 21 日にイベントを実施することが決定した。イベントの内容は怪談イベントで怪談師を呼び、怪談を話していただくことでお寺と関わるきっかけを作ろうというものである。特に、お寺の場所が大学のすぐ近くにあるため、本イベントを通して大学生がよりお寺とつながりを持つことを期待したい。

- ・ そのほかにも定期的にメンバー間でミーティングを行い、積極的な意見交換を行なった。

3. 今後の活動予定

- ・ イベントの実施に関して詳細を決定する。またイベントの協賛企業を募り、イベントの実施費用を確保する。
- ・ 広報活動にこれまで以上に注力し、新しくプロジェクトに参加してくれる学生を引き続き募集する。